

金峰山の日の出

劉若正
LIU RUOZHENG

8月、熊本は蒸し暑かったです。コロナは一回落ち着いて、第二波の流行になっていました。私はアルバイトをやめて、ずっと外出を自粛していました。死ぬほどつまらなかったです。そんなある日、友達が日の出を見に行こうと私を誘いました。あまり考えずに私は「行こう」と答えました。

翌日、未明2時に出発し、真っ暗な山道を通って、3時ごろに金峰山の駐車場に到着しました。市内の暑さと違って、ここは想像以上に寒かったです。歩けなくなりそうでした。熊本の冬と夏の距離は、車で僅か30分しかないようです。

ちょっと休憩してから、頂上に向かって出発しました。未明3時でしたが、途中で他の人に2、3回も会いました。かすかな光を頼りに、長年にわたって積もった落ち葉を踏んで歩きました。頂上に着くことができましたが、意外に疲れました。やはり久しぶりに体を動かしたせいでした。

ところが、空がだんだん明るくなるにつれて、霧が出てきました。このままでは、今日は日の出が見えないでしょう。せっかく来たのにこんな事になってしまいました。では、ここにきたことの意味は何だったのでしょうか。身を切るような風が吹いていて、もっと悲しいことを思い出しました。コロナ禍以来の数ヶ月は、私にとって、何の意味があったのでしょうか。学校に通うことや就職活動のような計画していたことは全部中止になりました。ごろごろしているうちに毎日が過ぎました。このままでは、この一年も無駄になるでしょう。この登山の旅も今年もどちらもまずいなあと

思っていたら、友達の呼びかけが聞こえてきました。何か面白いことを見つけたようです。

すぐ友達の所へ行ったら、この旅のサプライズに出会いました。そこには、ヤマガラという鳥がいました。ピーナッツを持って、手を伸ばすと、ヤマガラに食べてもらうことができました。私の手にも何回か止まってくれました。

嬉しくてヤマガラとの触れ合いに夢中になっていました。不意に、夜が明けました。霧が晴れて、太陽が出て、風もやさしくなってきました。日の出が見えなかった旅は、突然、意味があるように見えました。

本来はこうでしょう。旅の意味は終点に限りません。心を込めて観察し、体験すると、自然に収穫が得られます。私の手に止まってピーナッツを食べているヤマガラを見ながら、金峰山から帰ったらまじめに生活する理由を見つけました。